

一般社団法人 地域創生連携活動コンソーシアム 2017年度シンポジウム
「木材から木質化によるイノベーション」 実施報告書

一般社団法人 地域創生連携活動コンソーシアム事務局

日時:2017年12月4日(月) 13:00~17:00

場所:大阪富国生命ビル 4F テラプロジェクト・まちラボ A区画(大阪府大阪市北区小松原町2番4号)

主催:一般社団法人 地域創生連携活動コンソーシアム

(智頭町森林組合ならびに小国町森林組合は、弊団体の社員となっております)

共催:一般社団法人 テラプロジェクト、鳥取県智頭町、熊本県小国町、WOOD.ALC 西日本普及協会、
ミウラクワノパートナーシップ有限会社

後援:智の木協会

【開催趣旨】

今回のシンポジウムでは、「木材から木質化によるイノベーション」をテーマとし、地域材とその活用先としての木造建築のイノベーションを、地域創生というキーワードから考え、各々の考えをぶつけ合い、すでに前に進み始めているお互いの取り組みを知り、2020年に向けた地域材と木造建築が抱える問題に何ができるのかということについて議論を行いました。また、積極的に地域材を活用していく上で、木造建築の防耐火という課題と向き合うことも重要な課題のひとつだと考え、全国からご講演の依頼が相次ぐ桜設計集団一級建築士事務所の安井 昇 先生に、木造建築における防耐火の可能性と木質化の将来について基調講演をいただきました。さらに、各地域の取り組みとして、小国町森林組合が西日本で普及を進める第3のパネルとしてのWOOD.ALC、400年の歴史を誇る智頭杉の新たな展開(学生と共に考えて建てる地域材住宅、海外に向けた二畳サイズの茶室の展開など)の新商品開発事業をご紹介させていただきながら、様々な立場のシンポジウム参加者からご意見をいただきながら議論をさせていただきました。

【プログラム】 総合司会:渡邊久美子(小国町森林組合)

13:00-13:10 開会挨拶

小林昭雄(地域創生連携活動コンソーシアム 理事長)

13:00-13:20 シンポジウムのコンセプト説明

加藤 久明(地域創生連携活動コンソーシアム 事務局長)

13:20-13:30 コンソーシアムへの取り組みに関するメッセージ:町長メッセージ

智頭町長メッセージ報告担当 山本 進(智頭町役場山村再生課 課長)

小国町長メッセージ報告担当 長谷部公博(小国町役場産業課 林政係長)

13:30-14:30 基調講演「木造の防火技術開発と気持ちのよい木造をこれからもつくるために」

講師:安井 昇(桜設計集団一級建築士事務所 代表)

14:30-14:50 質疑応答

14:50-15:00 休憩

15:00-16:20 パネルディスカッション「木材から木質化によるイノベーション」

パネリスト :築瀬和彦(小国町森林組合 事業課長)

大谷豪太郎(智頭町森林組合 加工センター所長)

安井 昇(桜設計集団一級建築士事務所 代表)

三浦逸朗(ミウラクワノパートナーシップ有限会社 代表取締役)

モデレーター :加藤 久明(地域創生連携活動コンソーシアム 事務局長)

16:20-16:50 フロアとの議論とアイデア提案募集

16:50-17:00 まとめと閉会挨拶

17:00-17:20 休憩

17:20-19:00 交流会・地域創生連携活動コンソーシアム参加地域からの活動報告

写真資料



開会挨拶 小林 昭雄
(地域創生連携活動コンソーシアム 理事長)



コンソーシアムへの取り組みに関するメッセージ
智頭町長からのメッセージ
山本 進(智頭町役場山村再生課 課長)



コンソーシアムへの取り組みに関するメッセージ
小国町長からのメッセージ
長谷部 公博(小国町役場産業課 林政係長)



シンポジウムのコンセプト説明
加藤 久明
(地域創生連携活動コンソーシアム 事務局長)



基調講演 「木造の防火技術開発と気持ちのよい木造をこれからもつくるために」
講師:安井 昇(桜設計集団一級建築士事務所 代表)



基調講演者とフロアとの質疑応答

写真資料



パネルディスカッション「木材から木質化によるイノベーション」
パネリスト：築瀬 和彦(小国町森林組合 事業課長)
大谷 豪太郎(智頭町森林組合 加工センター所長)
安井 昇(桜設計集団一級建築士事務所 代表)
三浦 逸朗(ミウラクワパートナーシップ有限会社 代表取締役)
モデレーター：加藤 久明(地域創生連携活動コンソーシアム 事務局長)



コンソーシアム参加地域からの話題提供
(小国町森林組合)



コンソーシアム参加地域からの話題提供
(智頭町森林組合)



木造建築に関する話題提供
三浦 逸朗(ミウラクワパートナーシップ有限会社 代表取締役)



基調講演者からのコメント



参加者とのディスカッション

写真資料



フロアとのディスカッションにおけるパネリストによる解説

まとめ

安井先生による基調講演、コンソーシアム参加地域による活動報告と木造建築に関する話題提供を受けた上でのフロアを巻き込んだディスカッションにおいては、多岐にわたる視点からの意見がパネリストやフロアの皆様から示されました。

林業が置かれた状況は苦しく、どの地域においても即効性のある施策を求めているのが現状です。しかし、地産地消で消費できる量には限りがあり、異なった地域で消費をしてもらう必要があります。だからこそ、様々な林業地が持つ良い材についてどのように都市部にこれらを出していくのか、そのためにはどのようにその良さを知ってもらえば良いのか、ということが重要なトピックとなりました。また、パネリストの中には、山に行く建築士や林業を専門としていない研究者が山と関わり始めたメンバーなどがいたこともあり、領域を横断する変わった人材の重要性も大きな議論のトピックのひとつとなりました。

山側と使い手に関するディスカッションも行われ、生産者が真面目に材料に送り込んで、使い手が理解できていないことが多いため、「山側と設計事務所や工務店を繋ぐさらなる相互理解の場づくり」も課題として提起されました。同時に、様々な木材の取り扱いについて使い手が自ら実体験をしながら設計にどのようにフィードバックをさせていくのか、といった課題も提起されました。

最後のまとめと課題提起においては、加藤事務局長より以下のようなまとめと課題が示されました。

- ① どのように領域を横断する変わった人を継続的に発掘し、繋いでいくのか？
- ② 社会が持つ木材に対する渴望感があるが、その次のステップをどうやって考えるか？
- ③ 生産者も襟を正すことが必要であり、これは現場を知る使い手を増やすことや生産者に関する情報を仲介するような試みを相互に実践していくことで何らかの解が見えてくる可能性がある。
- ④ そして、今回のシンポジウムでいただいた課題やキーワードを受けて、どのように地域と領域を横断する変わった人たちが未来に向けた戦略を共に創るのかということが課題となる。その課題を考え、また翌年に取り組みを行い、回答を出していくことを課題として背負う。

本シンポジウムの開催にあたりましてご協力頂きました参加者の皆様、自治体、森林組合、業界団体、企業、大学の皆様に心より御礼を申し上げます。このコンソーシアムを通じて、歴史ある林業地が自らの原点と向き合い、先人から継承してきた森林を改めて知り、様々なよそ者と繋がりながら第三者からの評価を受け、地域資源としての木材の使い方を考え、継承してきた材の良さを伝える試みを重ねることで、森林と木材の使い手を繋ぐ共創の輪を次世代に継承することを目指し、来年も誠心誠意努力して参りますのでより一層のご支援を賜りますよう、関係者一同心よりお願い申し上げます。

【問い合わせ先】 一般社団法人 地域創生連携活動コンソーシアム 事務局
 ・住所: 〒530-0018 大阪府大阪市北区小松原町2番4号 大阪富国生命ビル 4F
 まちラボ E 区画 一般社団法人 地域創生連携活動コンソーシアム 「林業地連携ラボ」
 ・担当者: 事務局長 加藤久明 ・連絡先: 06-6755-4090(電話&ファクシミリ兼用)
 ・E-mail: info@chiikisousei.jp